

令和7年度
まちづくり支援事業補助金

活用 事例

のご紹介

①NPO法人リフ超学校

団体の目的

市民活動や市民協働社会（地域）を促進することが主な目的であり、それに加えて誰かの夢を叶える手助けをするとともに、誰かの叶った夢の続きまで伴走することも目的としています。

補助金の活用内容について

coffee「しゃべってみっぺ」という企画に活用しました。まちづくりに対し、何かしらの活動や興味の有無に関係なく、町民が気軽に集まり暮らしのイイ話や困りごとなどを対話することが目的の事業です。特に飲食を交えたと対話の質や量もさらに期待できるのではないかと企図し、施設利用料や飲食に係る経費に充当しました。

補助金を活用した感想

「誰でも参加できること」を念頭に企画してましたが、飲食をともなうことによりどうしても経費がかかり、参加運営協力費で充当すると、誰でも参加できる趣旨から外れてしまうため、補助金によって参加運営費を最低限で留められたことが功を奏したと感じています。

今後の抱負および活動予定について

町内で必要だと感じることは、多様な属性が垣根を超えて対話する量を増加すること。質よりも対話の場数を増やすことが肝要だと考えます。これからもこういった事業を継続していきます。



② ソーズエイトプログラミングクラブ

団体の目的

近年、情報化が急速に進んでいます。そういった情報化社会に対応した人材を育成することが目的です。

補助金の活用内容について

日頃の活動全般に活用させていただきました。ロボットキットの数の確保等が可能になりました。

補助金を活用した感想

とてもありがたい補助金だと感じました。

今後の抱負および活動予定について

日々活動していく中で、子供たちの学習能力の高さを改めて感じました。このような人材の自主的学習の機会が貴重であるとともに、とても重要だと思います。自主的学習を助長する必要性を強く感じ、そういった機会の創出にこれからも励んでいこうと思います。



③ バレーボール協会

団体の目的

バレーボールを通じて、利府町をPRすること。

補助金の活用内容について

利府町バレーボール協会役員のユニフォームとストップウォッチを購入しました。ユニフォームについては、背中に「利府町バレーボール協会」とプリントしたものを着用し、利府町のPRを行っています。

補助金を活用した感想

作成したユニフォームの着用により、バレーボール協会役員としての意識の高揚、モチベーションの向上や維持ができています。ストップウォッチについても、公式練習や作戦タイム、セット間等の各種計測に活用しており、大会のスムーズな運営に役立っており満足しています。

